

株式会社 エムウェーブ第26期事業報告書

自：令和4年4月1日

至：令和5年3月31日

1 事業の概要

(1) 事業の経過及びその成果

「エムウェーブ」及び「ビッグハット・若里市民文化ホール」は、長野オリンピックレガシーとして後世に引き継いでいくとともに、長野市の「スポーツと文化の振興」及び「産業の発展」に資することを目的とした施設です。

当社は、その指定管理者として、関係機関との連携の下、積極的な営業活動と情報発信を展開するとともに、質の高いサービスを提供し、一層の利用を促進することで、経済波及効果を創出してまいりました。また、アイススケートの競技力向上や普及促進を図るとともに、運営面では更なる効率化・合理化に努めてきたところであります。

当期においては、新型コロナウイルス感染症への社会的対応の変化により、コンサートや展示会等のイベントが感染対策を講じながら開催されるようになったほか、新型コロナウイルスワクチン接種会場としても活用され、上期（9月）までのグリーンシーズンは営業利益（黒字）を計上していました。

その後、10月からアイスシーズンに入り、スピードスケートやアイスホッケーの全日本クラスの大会が開催され、多くの観客にお越しいただき、スケート競技の拠点としての役割を果たしてきました。

しかしながら、収支面では、前期後半から上昇し続けてきたエネルギー価格が、今期アイスシーズンにピークを迎えたことにより、アイスリンクの整氷・維持管理に係る電気とガスの料金が前期同時期よりも7,800万円と大幅に増加したことから、大きな営業損失（赤字）に転換する状況となりました。

当期の事業実績として、売上高は6億764万円となり、前期との比較では4,095万円の増加、新型コロナウイルス感染症の影響が少なかった23期と比較すると1,522万円の減少となりました。なお、長野市からは、エネルギー価格高騰による影響を考慮して、光熱費の一部に対して指定管理料を増額して補填いただいています。

販売費及び一般管理に係る営業費用は6億5,821万円で、光熱費高騰の影響を大きく受け、前期と比べ7,933万円の増加となりました。

結果として、当期の営業利益は5,057万円の赤字損失、営業外収支を含めた税引前当期利益は4,833万円の赤字損失となりました。

[単位：千円／税抜き]

		利用者数(人)	売上高	販売費・管理費等	営業利益
全体 総括	23期実績	750,995	622,865	619,836	3,029
	25期実績	286,704	566,681	578,875	△12,195
	26期実績	425,731	607,640	658,212	△50,572
	増減	23期比	△325,264	△15,225	38,376
25期比		139,027	40,959	79,337	△38,377

(2) 施設部門別実績

ア エムウェーブ部門

(ア) 収支実績

売上高については、3億8,369万円で、前期より2,156万円、23期より3,372万円の増額となりました。

販売費・管理費等の経費については、4億2,934万円で、主に光熱費の高騰により、対前期5,605万円の増加、対23期3,814万円の大きな増加となりました。

結果として、営業利益は4,565万円の赤字損失となり、前期と比較すると3,449万円、23期と比較すると442万円の減少となりました。

[単位：千円／税抜き]

		利用者数(人)	売上高	販売費・管理費等	営業利益	
エムウェーブ	23期実績	385,696	349,977	391,204	△41,227	
	25期実績	123,792	362,135	373,292	△11,157	
	26期実績	210,385	383,697	429,349	△45,652	
	増減	23期比	△175,311	33,720	38,145	△4,425
		25期比	86,593	21,562	56,057	△34,495

(イ) 施設見学及び売店部門

長野オリンピックミュージアムは、北京冬季オリンピック大会のトーチ・メダルを購入し、展示品の充実を図りました。

見学者については、これまで自粛されていた学校での見学が再開されたことなどにより、前期の1.6倍の11,657人の方にお越しいただきました。

売店の売上は88万円で、東京オリンピック関連グッズの販売が終了したことにより、対前期99万円の減少となりました。

(ウ) 貸館部門

グリーンシーズンの貸館営業につきましては、継続的にご利用いただいている顧客への営業を含め、ビッグハットと営業面での連携を図りつつ、コンサート、展示会など大規模イベント等の誘致・開催に努めたところですが、コロナ禍の影響が残り、イベント等の開催がコロナ禍前に戻るにはまだ時間がかかるものと考えられます。

そうした状況でしたが、感染対策を講じながらイベントや、新型コロナワクチン集団接種会場として利用いただきました。

売上は1億3万円、入館者数は121,823人で、前期と比べて約2倍となり、23期と比べては、売上は2,342万円増加したものの、入館者数は161,270人の減少となっています。

(エ) スケート部門

スケート大会につきましては、全日本スピードスケート距離別選手権大会や全国中学

校スケート大会などが開催されたほか、昨年中止となった大会も予定どおり開催されたことから、売上は 2,225万円、大会入場者数は 20,430人となりました。これは、前期で開催された北京オリンピック日本代表選手選考会が減少した分、売上は593万円減少しましたが、入場者数は、コロナ禍による無観客による開催が無くなったことから8,500人増加となりました。

スケート入場については、コロナ禍が落ちついたことにより、スケート教室のほか、無料開放、氷の彫刻展、一般スケート営業を予定どおり実施できたことから、売上は 4,416万円、スケート入場者数はNTC利用者を含め 56,475人と、前期と比較して 943万円、13,869人の増加となりました。

エムウェーブのアイススケートの営業概要は、次のとおりです。

■アイススケート期間（営業期間：144日間）

令和4年	9月10日(土)	スピードリンク製氷作業（～9月30日）
	10月1日(土)	スピードリンクオープン（全日本及び競技者受入れ）
	10月2日(日)	スピードリンクオープン（一般営業開始）
	10月2日(日)	ホッケーリンク整備 （～11月2日：全日本距離別大会期間は作業中断）
	11月3日(木)	ホッケーリンクオープン
	11月7日(月)	スケート教室受入れ開始
5年	3月5日(日)	営業終了
	3月15日(水)	解氷作業（3月6日～3月15日）

■無料開放（7日間）

令和4年10月3日(日)	来場者	351人
11月13日(日)	〃	1,784人
12月4日(日)	〃	2,065人
令和5年1月8日(日)	〃	2,463人
2月25日(土)	〃	3,274人
2月26日(日)	〃	4,093人
3月5日(日)	〃	1,829人

■N T C（ナショナルトレーニングセンター）

アイスリンク専有時間	196時間
利用選手数	延べ10,374人（うち、NTC選抜有資格者2,037人）
トレーニングルーム利用者数	延べ1,086人

■主な競技会・イベント

1	第29回全日本スピードスケート距離別選手権大会	10月21日(金)～23日(日)
2	第67回長野県高校総体スケート大会スピード競技	12月13日(火)～14日(水)
3	第61回長野県中学校総体スピードスケート競技会	1月5日(木)～6日(金)

4	第43回全国中学校スケート大会(スピードスケート競技)	2月4日(土)～7日(火)
5	第21回エムウェーブスピードスケート競技会	2月17日(金)～19日(日)

■市内小学校スケート教室

教室開催日	37日間
参加学校数	延べ56校
参加者数	延べ 5,432人

(オ) その他

館内の広告看板営業収入については、前期より 52万円増加して 677万円となりました。

イ ビッグハット部門

(ア) 収支実績

売上高については2億2,394万円で、前期より 1,939万円の増加となりましたが、23期と比較すると 4,894万円の減少となりました。

販売費・管理費等については2億2,886万円で、対前期2,328万円、対23期 23万円の増加となりましたが、その主な要因は光熱費の高騰であります。

結果として、営業利益は 492万円の赤字損失となり、対25期 388万円、対23期 4,917万円の減少となっています。

[単位：千円／税抜き]

		利用者数(人)	売上高	販売費・管理費等	営業利益
ビッグハット	23期実績	365,299	272,888	228,632	44,256
	25期実績	162,912	204,546	205,583	△1,037
	26期実績	215,346	223,943	228,863	△4,920
	増減	23期比	△149,953	△48,945	231
25期比		52,434	19,397	23,280	△3,883

(イ) 貸館部門

様々な分野でのイベントの誘致・開催に努めてまいりましたが、コロナ禍の影響が残り、以前のようなイベントの開催状況には至りませんでした。そうした中ではありましたが、感染対策を講じながら展示会、スポーツ大会の開催のほか、新型コロナワクチン集団接種会場として利用いただきました。

売上は 6,222万円、入館者数は 121,809人で、前期と比較して売上は 96万円、入館者数は 19,369人の増加となりましたが、対23期では、売上は 3,091万円、入館者数は 120,946人の減少となっています。

若里市民文化ホールについては、コロナ禍の影響が残ったものの、徐々に利用が戻ってき

たことから、売上は 2,550万円、入館者 64,013人で、対前期 611万円、10,560人の増加となっています。

(ウ) スケート部門

スケート大会等につきましては、全日本アイスホッケー選手権大会や全国中学校スケート大会（フィギュアスケート）が開催されたほか、アイスショーや昨年中止となったアイスホッケーのローカル大会も予定どおり開催されました。

スケート大会売上は 1,516万円、入場者数は 27,036人で、前期と比較すると 869万円、22,596人の増加となりました。

スケート入場の売上は 326万円で、前期と比較して 108万円の増加、スケート入場者は 2,488人で前期と比較して 731人の増加となりました。

ビッグハットのアイススケートの営業概要は、次のとおりです。

■アイススケート期間（営業期間：68日間）

令和4年11月28日（月）	ホッケーリンク製氷作業（～12月11日）
12月12日（月）	ホッケーリンクオープン
令和5年2月26日（日）	営業終了
2月26日（日）	アイスリンク営業終了
3月12日（日）	解氷作業（2月27日～3月12日）

■主なイベント及び競技会

令和4年12月15日（木）～18日（日）	第90回全日本アイスホッケー選手権大会
令和5年1月21日（土）～22日（日）	浅田真央 アイスショー
令和5年2月4日（土）～7日（火）	第43回全国中学校スケート大会（フィギュアスケート）
令和5年2月18日（土）～19日（日）	第29回全日本シンクロナイズドスケートイング選手権大会

(3) 営業成績及び財産状況の推移

(単位：千円)

区 分	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期
売上高	93,020	503,205	477,700	427,268	411,745	342,744	360,336	368,690	226,660
当期損益 (税引後)	△9,014	△32,767	32,162	5,041	6,673	△279	8,568	6,572	18,438
1株当り 当期損益	円 △1,502.35	円 △5,461.1	円 5,360.47	円 840.22	円 1,112.14	円 △46.52	円 1,428.05	円 1,095.37	円 3,072.95
純資産	290,986	258,219	290,382	295,423	302,096	301,817	310,385	316,957	335,395
総資産	345,709	318,346	348,281	377,501	334,536	327,694	350,694	349,387	383,298

区 分	第10期	第11期	第12期	第13期	第14期	第15期	第16期	第17期	第18期
売上高	626,482	643,286	628,308	648,565	677,245	627,560	644,889	663,919	639,418
当期損益 (税引後)	36,142	18,123	14,059	16,599	19,293	12,519	2,578	5,978	12,185
1株当り 当期損益	円 6,023.69	円 3,020.33	円 2,703.64	円 3,192.09	円 3,710.20	円 2,407.55	円 495.91	円 1,149.65	円 2,343.43
純資産	371,537	389,660	363,719	380,318	399,611	412,130	414,709	420,686	432,872
総資産	450,954	464,166	430,645	473,967	470,712	483,716	488,594	507,272	505,043

区 分	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期	第26期
売上高	674,087	682,983	621,096	640,918	622,865	505,313	566,681	607,640
当期損益 (税引後)	13,658	16,386	12,598	8,008	1,254	△32,243	△10,237	△48,661
1株当り 当期損益	円 2,626.62	円 3,151.22	円 2,422.80	円 1,540.16	円 241.19	円 △6,200.57	円 △1,968.65	円 △9,357.88
純資産	446,531	462,917	475,516	313,525	314,779	282,535	272,298	223,637
総資産	539,002	563,713	547,772	393,314	385,087	338,210	540,549	344,473

(注)

- 1 第1期は、当社設立が6月1日であり、9月30日までの4か月間です。
- 2 第9期から事業年度を4月1日から翌年3月31日までと変更したため、第9期は6か月間です。
- 3 1株当たり当期損益は、期末発行済株式の総数から算出しています。なお、発行済株式の総数については、自己株式を除いています。
- 4 第10期からビッグハット及び若里市民文化ホールの指定管理業務を行っています。
- 5 第22期において、資本金の額を3億円から9,000万円に減少するとともに、自己株式800株を消却しました。

(4) 設備投資の状況

- ア 北京冬季オリンピック大会の展示用金・銀・銅メダル、トーチを購入しました。
- イ ビッグハット事務所で使用するパソコンを購入しました。
- ウ 貸出用ポータブルランプセットを更新しました。

(5) 会社に対処すべき継続的課題

- ア 長野オリンピックレガシーとして大切な施設である「エムウェーブ」、「ビッグハット」を後世に引き継いでいくとともに、地域振興と長野の知名度・イメージ向上のための情報発信などを積極的に展開していきます。
- イ アイススケート普及のための強力なサポーターとなり、スケート競技の拠点化を進めていきます。
- ウ 合理的、効率的な経営を行い、常に良質なサービスの提供と継続的な黒字経営に努めます。

2 会社の現況

(1) 株式の状況

会社が発行する株式の総数	24,000株
発行済み株式の総数	5,200株
株主数	8名

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率(%)
長野市	3,000	57.7
長野県	600	11.5
株式会社 前川製作所	800	15.4
鹿島建物総合管理 株式会社	500	9.6
株式会社 八十二銀行	160	3.1
長野信用金庫	80	1.5
長野県農業協同組合中央会	30	0.6
長野都市ガス株式会社	30	0.6

(2) 取締役及び監査役の氏名等 (令和5年3月31日現在)

会社における地位	氏名	担当または主な職業
代表取締役会長	荻原 健 司	長野市長
代表取締役社長	倉 島 明	株式会社エムウェーブ (常勤)
取締役	尾 島 信 久	長野県教育委員会事務局教育次長
取締役	樋 代 章 平	株式会社八十二銀行専務取締役
取締役	西 澤 雅 樹	長野市副市長
取締役	中 村 裕 一	長野市商工観光部長
監査役	黒 岩 博	長野信用金庫専務理事
監査役	武 重 正 史	長野県農業協同組合中央会専務理事

(注) 当該事業期中の取締役及び監査役の異動は、次のとおりです。

1 取締役退任

令和4年3月31日付けで樋口 博氏及び下平 嗣氏が退任されました。

2 取締役就任

令和4年6月29日付けで西澤雅樹氏、中村裕一氏が就任されました。

3 監査役退任

令和4年6月21日付けで角澤本広氏が退任されました。

4 監査役就任

令和4年8月30日付けで黒岩 博氏が就任されました。

(3) 従業員の状況 (役員を除く。令和5年3月31日現在)

人 数		平均年齢	平均勤続年数
男 性	6名	55歳5月	8年5か月
女 性	5名		